

「京都市地域コミュニティ活性化推進計画」の改定に向けた 第2テーマの検討部会

- 1 日 時 令和元年9月11日（水） 午後5時～7時20分
- 2 場 所 職員会館かもがわ 大多目的室
- 3 出席者 委員7名
事務局（別府文化市民局長，猪田地域自治推進室長，樋掛地域コミュニティ・北部山間振興部長，大東地域づくり推進課長，川瀬市民活動支援課長，他）

4 概要

（1）京都市の地域コミュニティに関する状況等について

事務局から資料3を基に地域コミュニティ活性化推進部会について，資料4を基に地域団体とNPO法人の連携促進事業について説明

○ 立木委員長

今説明があった資料で，世帯数や単身世帯の増加，人口構造の少子高齢化などについて触れられていたが，補足してデータを紹介したい。

（データの紹介）

特に2025年以降，いわゆる団塊の世代が後期高齢期に達し，高齢者の中でも後期高齢者が増える。ただ，全国と比べた京都市の特徴は，2025年以降，15～65歳のいわゆる生産年齢人口，つまり税金を納める年齢層はあまり増減がないということである。2025年までは，高齢者が増加する中で，いかにコミュニティに参加してもらうかということが課題であり，一方でその時期は市の税収は減っていくことが予想されることから，これまで通り，税金をコミュニティの維持に充てられるかが問題になってくる。

こうした将来的な動向や予測に関するデータも検討の素材に含めて，議論を進めてほしい。基本的なデータは，国立社会保障・人口問題研究所などが公表していて簡単に入手できるので，検討のための資料として整理しておいてほしい。

（2）第2テーマ「地域の特性やライフステージに応じた多様な地域コミュニティの活性化策」の検討

◎ 平田部会長

第2テーマ「地域の特性やライフステージに応じた多様な地域コミュニティの活性化策」について，2つのグループで，ワークショップ形式の意見交換をしていただきたい。

ア グループAで出た主な意見

(グループAでは、現状や課題を出していただき、それを共有し将来イメージなどを膨らませた。)

- ・ 地域の「困りごと」が多様で複雑になっていて、対応が難しくなっている。またその相談先もよくわからなくなっている。さらに、相談に対応していくためには、その人の個人的な事情にどこまで踏み込んでいいのかわからないという、地域での課題がある。女性高齢者は男性の民生委員には話しづらいというケースもある。
- ・ ある自治会では「高齢者は退会して、若い人は入会してこない」という声がある。なんとか60歳代、70歳代に地域活動の担い手になってもらいたい。そういった方が参加しやすい仕組みづくりが必要である。
- ・ 各種団体でも担い手がないという問題が出てきており、町内会と各種団体のつながりを持つことが難しくなっている。各種団体が活性化することが地域にとっても大事なことである。
- ・ 各種団体の現状をマーケティング的に調べて、うまく運営しているところをヒントにしていくことも有効な手段である。
- ・ 担い手不足という観点から掘り下げると、女性会では若い人が、PTAでは男性が、どのようにしたら参加してもらえるか、また、子育て世代に頼みづらいといったライフステージごとの課題が見えてきた。
- ・ 行事やイベントが活発であるという状態が、地域コミュニティが活発である状態である。
- ・ 子どもの頃に大人がやってくれたことやあの時あの人が助けてくれたといった顔が思い浮かぶ記憶を作っていくということも今後につながっていく。人と人の御縁で活動を広げていくようなイメージ。人が関わり続ける又は関わりやすい仕組みを考えていく必要がある。
- ・ マンションの転入者の町内会への受入れに関しては、地域側とマンションの住民側の両方に課題があるのではないか。例えば地域側は町内会長が1年で代わるので、リーダーの考えによって左右され、タイミングを失うと町内会に加入できていないということもある。
- ・ 町内だけでは解決できない社会的問題は、行政にも何らかの役割を考えてほしい。

イ グループBで出た主な意見

(グループBでは、現状・課題を中心に意見が出て、そこから新たな取組のアイデア的なものが出てきた。)

- ・ PTA の観点，おやじの会の観点から，町内会に参加しているのは一軒家住まいが多く，マンション住まいは少なく感じる。子育て世代は，子どもが小さい時は参加するが小学校を卒業すると参加しなくなる。会費の問題ではなく，地域の活動に興味がない，やりたくないと思っているのではないか。
- ・ 地域活動自体がわからないと思われているなら見える化が必要。また，行事が多すぎて大変だと思われているなら，活動のスリム化が必要である。
- ・ 新たに地域住民となる方と地域との交流がなかなか進まず，溝が埋まらない。地蔵盆などこれまでの前例を繰り返しているだけでは，参加してもらえない。次の時代にあった面白いもの，楽しいものを生み出していかないと交流も生まれにくく，自治会・町内会への加入にもつながらない。
- ・ 地域活動を楽しく感じるような場が必要だが，そもそも意見を出し合う場や考える場がない。それぞれの行政区でカフェのような事業をしているところはあるが，エリアによっても違いがあり，同じ場でみんなで話し合うのは難しい。小さなエリア単位での朝カフェのようなものがあれば，意見を出し合い，楽しいことを考えることができるので，そういう場が必要である。
- ・ 既存の地域団体が人口減少などで維持できなくなってきたという問題がある。定年退職後の男性が，図書館に集まっており地域活動の中に入っていない。そういう人たちが，定年退職後，地域で活動するのがおしゃれだと思わせるマーケティングも必要。
- ・ 一方，女性は子どもが育った後は，自分のスキルアップのために過ごすのではなく，地域の中で，みんなで自分たちの趣味を分かち合い学び合える場があれば，地域の中にいろいろな人を組み込んでいけるのではないか。

(3) その他（事務連絡など）

■事務局から部会の日程調整についての報告

(閉会)